

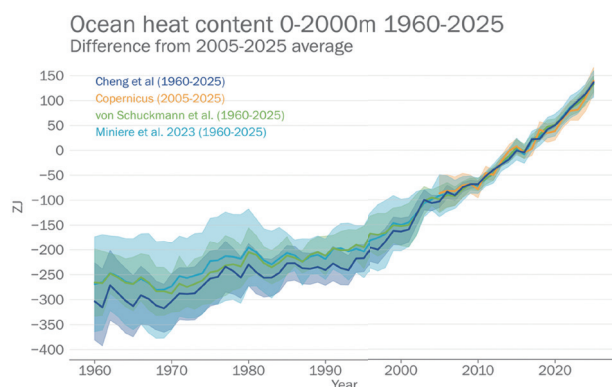
観測史上最高の高温と温室効果ガスの増加が示す 温暖化の加速 — WMO年次報告書から

世界気象機関（WMO）は2026年3月23日に、年次報告書「State of the Global Climate 2025」を公表しました。これは世界各国の観測データをもとに、地球規模の気候変動の現状を総合的に評価したものです。

報告書によると、2015～25年までの11年間は観測史上最も暑い11年となりました。また2024年は観測史上2番目か3番目に熱い年で、1850～1900年の平均気温を約1.43℃上回ったとしています。

また報告書は初めて、温室効果ガス濃度増加による、地球のエネルギー収支の不均衡が、観測が始まった1960年以来増加し続け、2025年は65年間で最高レベルに達したとしました。

中でも余剰熱量の91%以上を蓄積している海洋は、過去20年間において、人間活動の年排出量の約18倍のエネルギーを吸収し、温暖化のペースもこれまでの2倍以上に加速しているとしました(図)。



図：海洋熱量（0～2000m）1960-2025年
（2005～2025年平均値との差）

さらに地球温暖化による異常気象は何百万人に影響を与え、数十億ドルの損失をもたらしているとしています。

WMOは報告書を出した3月23日を世界気象デーとしています。今年のテーマは「今日を観測し、未来を守る」でした。つまり私たちが今すぐ行動に移すことをメッセージに込めたのです。

Contents

特集

英紙The Guardianが報じた「戦争と気候危機」

— イラン攻撃が示すもう一つの深刻な代償 2

観測史上最高の高温と温室効果ガスの増加が示す 温暖化の加速—WMO年次報告書から	1
暴走するトランプ大統領	4
農水省「令和7年地球温暖化影響調査レポート(速報)」	6
経産省 FIT制度・FIP制度の2026年度以降の 買取価格と2026年度の再エネ賦課金単価を公表	8
プラスチックについて知ろう(4)	10
生協から、学習会の講師依頼がありました	12
ワタシのミライ・大阪 大阪駅前スタンディング	13

太陽光パネルリサイクル工場見学報告	14
我が家の脱炭素	16
身近な一歩から、気候アクションをひらく—「Activists Next Door」と渡辺晏子さんの取り組み	18
自然エネルギー市民の会 活動報告	20
全大阪消費者団体連絡会の環境の取り組み紹介	22
10年ぶりに「地球温暖化資料集」を作成中	23
CASAからのお知らせ	24